

◆ 『チョコちゃん』 プロジェクト関係者が知事を表敬訪問しました。



この度、当町が日本一の生産量を誇る唯一の農産品である『祇園坊柿』の高付加価値ブランド化を目的として、当協会が県や町の支援を受けてブラッシュアップ（磨き上げ）コーディネイトを実施した祇園坊柿の加工品である『チョコちゃん』が、観光庁後援で日本有数の規模を誇る『おみやげグランプリ2015（主催：ふるさと祭り東京実行委員会）』において、準グランプリ（第2位）を受賞したことを受け、生産者である「寺領味野里」メンバーや関係者らが、受賞報告のため広島県庁に湯崎知事を表敬訪問しました。

多くのマスコミが集まった中での知事との面談では、地方創生のキーワードである『自助・共助・公助』を戦略的に具現化した本事業について産業振興課長が概要を説明し、コーディネイト組織として当協会長の末田が県の支援に感謝を表明しました。

最後に、味野里代表の栗栖さんがチャレンジトークで知事が『寺領味野里』訪問をされたことにお礼を申しあげ、チョコちゃんを贈呈して試食いただくなど、大変和やかな雰囲気うちに終了しました。

なお、表敬訪問時に知事に報告したチョコちゃんブラッシュアップの経緯は次の通りですが、知事からは「地方創生」の見本であるとお褒めいただきました。



関係者と知事との記念写真

年 月	取組み内容等	チョコちゃん販売詳細	
		価格(円)	販売数(個)
平成13年	味野里（約20名）が「チョコちゃん」を開発・製造開始	200	約200
平成25年4月	安芸太田町観光協会支援により、モンドセレクション銅賞受賞	300	約600
平成25年10月～	・同観光協会が、町内の若者を中心としたプロジェクトチームを立ち上げ「チョコちゃん」のブラッシュアップに取り組む ・祇園坊柿機能性分析実施（町支援）	500	約2,600
平成26年12月～	・町内2事業者によるチョコちゃん共同生産（OEM）を開始 ・自動皮むき機導入（町支援・県補助） ・祇園坊柿機能性分析、健康モニター調査等実施（町支援・県補助）	540	30,000 （目標）
平成27年1月	・『おみやげグランプリ2015』で準グランプリ受賞 ・12月の販売開始後、約3か月で販売総数が8,000個を突破		

◆ 首都圏・関西圏在住の町出身者に対して町の取組み報告会を初めて開催しました。

人口減少、超少子高齢化が深刻さを増している当町では圧倒的に各分野での人材や知恵が『不足』していると感じており、それらを解消するために、当会では町の活性化を支えてくれる『ファン』づくりを積極的に進めてきました。

特に当町出身者については非常に重要な『ファン予備軍』であることから、今後の戦略的展開を見据え、現町制施行以降、初めて首都圏および関西圏在住の町出身者に当町の現状と取組みを正確にご理解いただくための説明会を町長や地域づくり課長、商工会長、当会長らが出席し、1月・2月に東京と大阪で1回ずつ開催し、50名以上の各界のご活躍の方々にご参加いただきました。

公的分野を役場が、民間分野を当会が説明し、参加者からは支援表明の声が多く寄せられ、来年度以降もファンづくりに有効な本事業を行政側と協働しつつ息の長い活動としていきたいと考えています。（参加者の方が説明会後に当町へUターンを決めていただきました。）



首都圏説明会の様子



関西圏説明会の様子

◆第3回世界イグルー選手権大会が大盛況のうちに終了しました。

今年で3回目を迎える本イベントは『誰でも気軽に参加でき、普通の人でも世界王者になれる数少ない国際大会』をキャッチフレーズに、「新しい雪の遊び方」を提案し、当町の良質な天然雪と大自然を思う存分楽しんでいただくことで、スキーやスノーボードをしない『顧客市場』開拓を目的に開催してきました。有料にもかかわらず、総勢37チーム、海外テレビ局・外国人・お笑いタレント・プロ女子サッカー選手を始め、町内からは加計高校生や町民グループなど、今年も約300名の競技者と多くの応援者・観覧者が『恐羅漢スノーパーク』を埋め尽くし、気温マイナス7℃という非常に厳しいコンディションの中、競技を楽しんでいただきました。

町内では最も国際色豊かなイベントですが、今年は『アジア』の方々の参加が目立った大会でした。複数チームで参加下さった台湾の皆さんは『広島に雪がこんなに積もる地域があるとは知らなかった』と仰っており、『東南アジアから最も近い豪雪地帯』としての『安芸太田町ブランド』が北海道や東北、長野などの『雪国』のライバルに誘客で十分勝てる『要素』があることを確信した大会となりました。

なお、『スピードの部』優勝チームのメンバーは『松原地区での雪かき交流』に毎年参加されており、『雪かき』を通じて安芸太田町のファンになってくださっている状況も大変うれしいことでした。

イベント運営は、恐羅漢スノーパークスタッフや町内の若者に加え、安田女子大学生や町外支援者などで行っており、運営スタッフも参加者と共に楽しんでイベントを盛り上げることが出来ました。

このイベント運営方法は高齢化が進み、活気が失われつつある多くの町内イベントの有り方に一石を投じたと考えており、要望があれば、運営システムを町内イベントに応用するノウハウが整いました。

最後になりますが、本イベントを支援くださった町内外の多くの皆様に対し、心からお礼申し上げます。

◆平成27年度の来町希望校多数につき、『民泊』家庭登録をお願いします!!

(民泊「みんぱく」= 町民宅に都会の学生を受け入れ、子や孫として田舎の生活を体験させる取り組みのこと。一般的には3～4名を1～2泊受け入れ。4名1泊受け入れの場合、謝礼金28,000円程度)

3年が経過した『あきおおた人情田舎民泊』事業ですが、今年5月以降の来町予定学生数が2,000名を超えました。

現在、北広島町でも2,000名程度を受入れています。ほとんどが『県内の小学生』なのに対し、当町の『人情田舎民泊』は首都圏から沖縄まで、海外はアジア・ヨーロッパ・アメリカ・ブラジルなどから中学生、高校生、大学生の来町が決定しており、これほど多様な地域から訪問を希望されている民泊地は県内では『当町』のみなのです。この結果から分かるように、町民の飾らない素朴な『人情』が国内外のさまざまな学校から大きな評価を得ているのです。

現在113軒の民泊登録をいただいておりますが、まだまだ登録が不足している状況です。

世界や日本の未来を担う『学生達』の為に、間違いなく学生たちと感動を共有できる本事業への参加をお勧めします。

3月以降に各地域の会合などに参加し、募集説明をさせていただきますので、積極的な登録へのご協力を是非お願いします。

[安芸太田町田舎体験推進協議会 ☎28-1800]



台湾からやって来た修学旅行団と民泊家庭との集合写真